

< 社会 >

学ぶ意欲を高め、考え力を育てるための授業の工夫・改善

～ 問題解決的な学習指導を通して～

普天間小学校教諭 大湾 修

目 次

テーマ設定の理由	1
研究目標	1
研究仮説	1
研究の全体構想図	2
研究内容	
1 学ぶ意欲について	3
2 考える力とは	4
3 問題解決的な学習について	5
4 考える力を高めるための話し合い活動	6
5 ICTの活用について	6
検証授業	8
1 単元名	8
2 単元目標	8
3 単元について	8
4 児童の実態	9
5 評価規準	10
6 指導計画	10
7 本時の指導	12
8 検証授業研究会	14
仮説の検証	
1 具体仮説 の検証	16
2 具体仮説 の検証	18
研究の成果と今後の課題	
1 研究の成果	20
2 今後の課題	20
3 おわりに	20

< 主な参考文献 >

学ぶ意欲を高め、考える力を育てるための授業の工夫・改善
～問題解決的な学習指導を通して～

普天間小学校教諭 大湾 修

テーマ設定の理由

私たちを取り巻く現代社会は、国際化社会、情報化社会とも称され、かつてないほどの速さで目まぐるしく変化している。学校現場では、これらの社会の変化を踏まえた新しい教育の在り方が問われている。

新学習指導要領の基本的な考え方は、現行学習指導要領の理念を引き継いで「生きる力」を育むことにある。「生きる力」とは、基礎・基本を身に付け、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力を意味している。

新学習指導要領では、「体験的な学習や問題解決的な学習の充実を図ることによって基礎的な知識・技能を確実に習得し、それらを活用して自ら考え、判断し、表現することによって、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力」を育成することを目指している。

これまでの私の社会科実践では、問題解決的な学習を取り入れることが少なく、教師主導の下、教科書の内容を解説してノートまとめをさせて憶えさせていく授業が中心であった。また、まとめたことを発表する活動を取り入れても単なる調べたことの報告会のような感じで時間をかけた割には活発な意見交換もなく、学習の深まりが見られなかった。

これまでの実践の反省から、子ども達に考える力を身に付けさせたい、その過程を通して子ども達の学ぶ意欲を高めてきたい、そして何よりも「楽しい社会科」の授業づくりをしていきたいと思う。

そのために、問題解決的な学習を取り入れた学習活動を展開することが必要だと考える。本来、社会科は、問題解決的な学習を基盤としている教科だからである。子ども達が社会的事象や地域社会への理解を確かなものにするとは、子ども自身が学習問題を見出し、いろいろな方法を使って調べ、考え、その解決に迫っていくことを意味する。こうした活動を通して、子ども達は活動することの楽しさや追究することの楽しさ、学ぶことの楽しさを知り、考える力を高めながら、わかることの喜びを味わうことができる。学ぶことの楽しさ、わかることの喜びを味わうことにより、満足感や充実感、達成感を感じ、それが学ぶ意欲に繋がるのではと考える。しかし、そこには、考える力を育てるため、学ぶ意欲を高めるための工夫や手立てが必要である。考える力を育てるために、話し合い活動で考えを練り合う場面を重視し、集団での学び合い、関わり合いの中から社会的事象の意味や働きを考えさせる指導の工夫を図っていきたい。また、ICTを学習場面に応じて活用していくことは、子ども達の主体的な活動を促し、学ぶ意欲を高めるために有効ではないかと考える。

そこで、問題解決的な学習においてICT活用や話し合う活動を重視した指導法を工夫することで学ぶ意欲を高め、考える力を育てることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

研究目標

社会科の授業において、学ぶ意欲を高め、考える力を育てるための授業の工夫・改善について研究する。

研究仮説

1 基本仮説

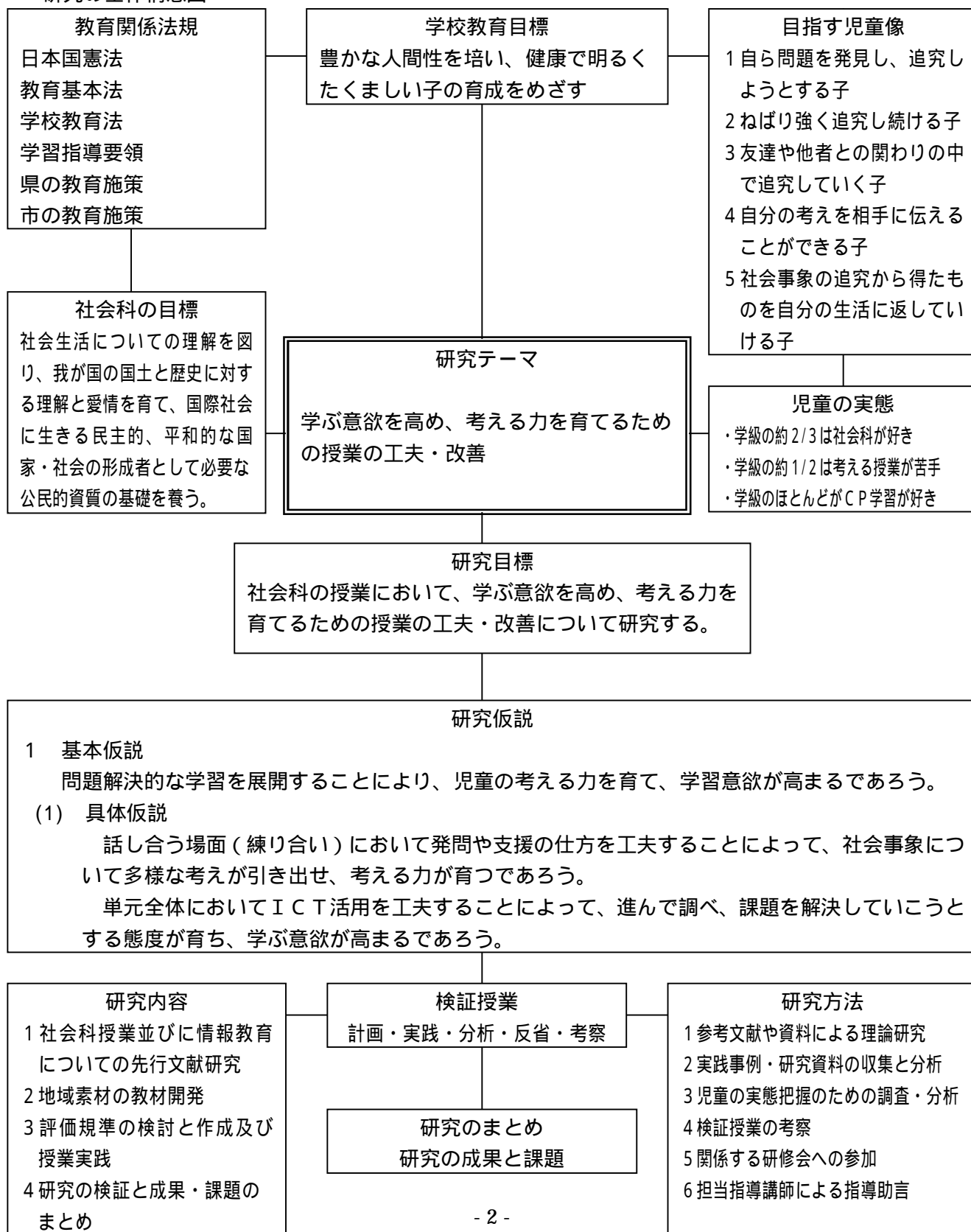
問題解決的な学習を展開することにより、児童の考える力を育て、学習意欲が高まるであろう。

(1) 具体仮説

話し合う場面（練り合い）において、発問や支援の仕方を工夫することによって、社会的事象について多様な考えが引き出せ、考える力が育つであろう。

単元全体においてICT活用を工夫することによって、進んで調べ、課題を解決していこうとする態度が育ち、学ぶ意欲が高まるであろう。

研究の全体構想図



研究内容

1 学ぶ意欲(学習意欲)について

(1) 学ぶ意欲とは

「意欲」とは、「岩波 国語辞典」によると「積極的に何かをしようとする心」とある。これから「学ぶ意欲」あるいは「学習意欲」とは、「積極的に学んでいこうとする意思・気持ち」「進んで学習しようとする意思・気持ち」と捉えられる。

(2) 学ぶ意欲を高めるには

外発的動機づけと内発的動機づけ

市川伸一(2007)によると、「教育心理学では、学習意欲のことを動機づけ(motivation)と呼んで、その中には外発的なものと内発的なものがあると考えてきた」と述べ、さらに、外発的動機づけと内発的動機づけについて『外発的動機づけとは、物質的な賞罰や賞賛、叱責など、外から与えられる目標をめあてにして学習するときの意欲であり、一方、内発的動機づけとは、「知りたい」「できるようになりたい」と、学ぶことや行動することそれ自体の楽しさを求めて学習する意欲のことである』と述べている。

それでは、子ども達に学習させる上で、外発的動機づけと内発的動機づけのどちらが大切かとなると、どちらも大切だと考える。褒めたり、学習で合格シールを貼ったりすることは、子どもにとって嬉しいものであり、その嬉しさは、学ぶ意欲に繋がるであろう。

一方、内発的動機づけは、外発的動機づけ以上に子ども達に学習させる上で大切であると考えられる。外発的動機づけは、外からの賞罰などによって動機づけられるものであるから、本人の意欲や行動が他者の意思や都合によって左右される面もある。「知りたい」「できるようになりたい」と、学ぶことそれ自体の楽しさを求めて学習する意欲は、ねばり強く学び続ける際、大きな原動力となる。内発的動機づけに基づいた意欲は、それこそ強い意欲である。その意欲を失わせないために、楽しく、わかりやすい授業を工夫することが教師に求められる。きちんと学習内容を理解させることで、子どもが本来持っている「知りたい」「わかりたい」という欲求を満たすことができるからである。

学ぶ意欲と学びの文脈

市川伸一(2007)は、「いったい自分は、なぜ、何のために、今ここでこのような学習をしているか」という、学ぶことの意義づけを学びの文脈と呼んでいる。『人は、学習するときに、意図的、あるいは無意図的に、自分なりの学びの文脈をもっていて、例えば、「テストのため」「好きな先生にほめられたから」などもその子なりの学びの文脈であり、どういう文脈の中で学ぶかということは、学ぶ意欲に大きく影響する』と述べている。

教師にしてみれば、価値や意義があると考えられるような文脈の中で、子ども自身にもそれを実感させながら学んで欲しいと思う。「本当はやりたくないけど、放課後、残されるからイヤイヤながらやる」のようなことではなく、「楽しいから」「やりがいがあるから」などのような生き生きと学び、主体的に学習する子どもの姿を願いたい。事前アンケートの結果から、子ども達は、共同で調べる学習や施設見学、コンピュータ学習に興味があることがわかっている。それを踏まえて、学ぶ楽しさや、わかる喜びが味わえる授業を構成していくことは、教師の大切な役割であるといえる。

学ぶことが楽しいと思わせるような授業作りをしていくこと、それを続けていくことが学ぶ意欲を高めていくと考える。

2 考える力とは

(1) 中央教育課程審議会答申から

中央教育課程審議会答申で小学校社会科の「改善の具体的事項」の社会科の指導方法について「作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を一層充実させることにより、学習や生活の基礎となる知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して観察・調査したり、各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったりしたことを的確に記録し、比較・関連付け・総合しながら再構成する学習や考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習の充実を図る。」とある。つまり、「知識・技能を確実に習得するだけでなく、身に付けた知識・技能を活用できるようにする、さらには、表現し合うことにより、考えを深めることができるようにする」指導の充実が求められている。ここで深まった考え、「その社会的事象がどのような意味を持っているのか」「なぜそのようになっているのか」などと考えることのできる能力のことを社会科における「考える力」だと捉える。

中央教育課程審議会答申をうけて、改訂される社会科の学習指導要領（平成23年度全面実施）において、各学年の目標をみると、例えば第3学年及び第4学年に「地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力」や「調べたことや考えたことを表現する力」を育てることが明記されている。調べる力、資料を活用する力、考える力とともに、調べたことや考えたことを基にして表現する力を育てるようにしている。また、内容の示し方において、例えば第3学年及び第4学年の内容（3）（地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり）には、次のように示されている。

地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。
ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり。
イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること。

具体的に調べる対象と、調べたことから子ども達に考えさせたい内容とが区別され示されている。ここでは、「ア」及び「イ」のことを「見学、調査したり、資料を活用したり」して具体的に調べ、そのことをもとに「これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活と良好な生活環境向上の維持に役立っていることを考えるようにする」ことをねらいとしている。こうした学習指導要領の趣旨をうけて、体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れ、「考える力」「調べたことや考えたことを表現する力」を育てる授業作りに努めなければならない。

北俊夫・羽豆成二著『社会科の授業と評価3・4年（下）』参照

(2) 考える力を育てるには

調べたり、まとめたりする過程や結果において、「その社会的事象がどのような意味を持っているのか」「なぜそのようになっているのか」などと考えることのできる「考える力」を育てるには、考える場面を設定することが大切である。事実を丁寧に調べることは重要なことであるが、問題意識がそこで満足し停滞してしまうとなかなか考えが深まっていけない。自分なりの見方や考え方を持たせる場面の設定が必要である。調べたことをもとに自分なりに考えてみる、あるいは集団での学び合い、練り合いを通して他の考えに触れ、再度、考えてみるなど、子どもが思考する場面や機会を多く設け、経験させていくことが、考える力を育てていくために大切である。よって、問題解決的な学習における話し合い活動は、考える力を育てるために、重要な場面になる。ここでは、教師が思考を促したり誘発したりする発問や助言などを意図的に行い、話し合い活動で子ども達の考えに深まりが出るように支援していく必要があると考える。

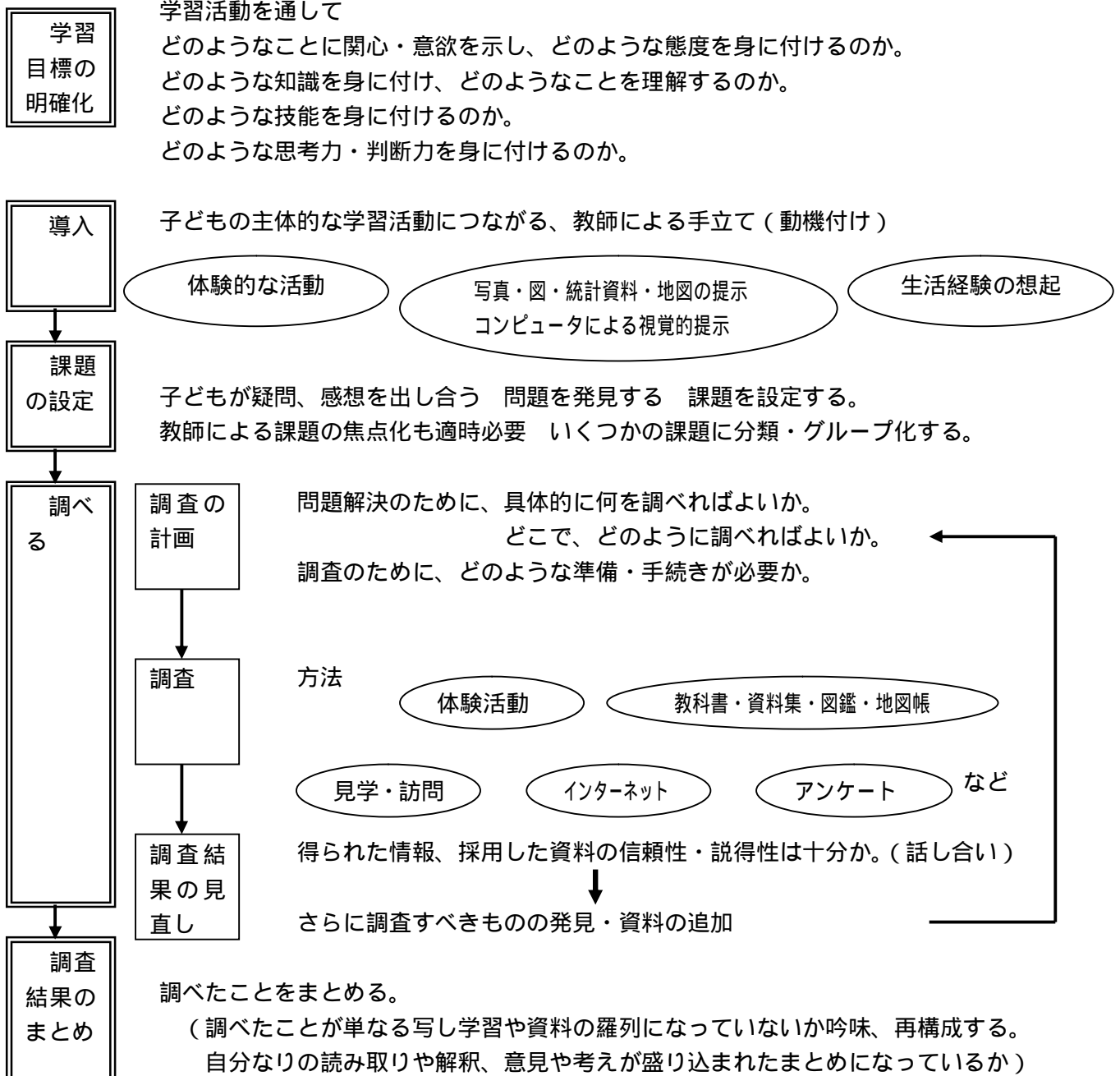
3 問題解決的な学習について

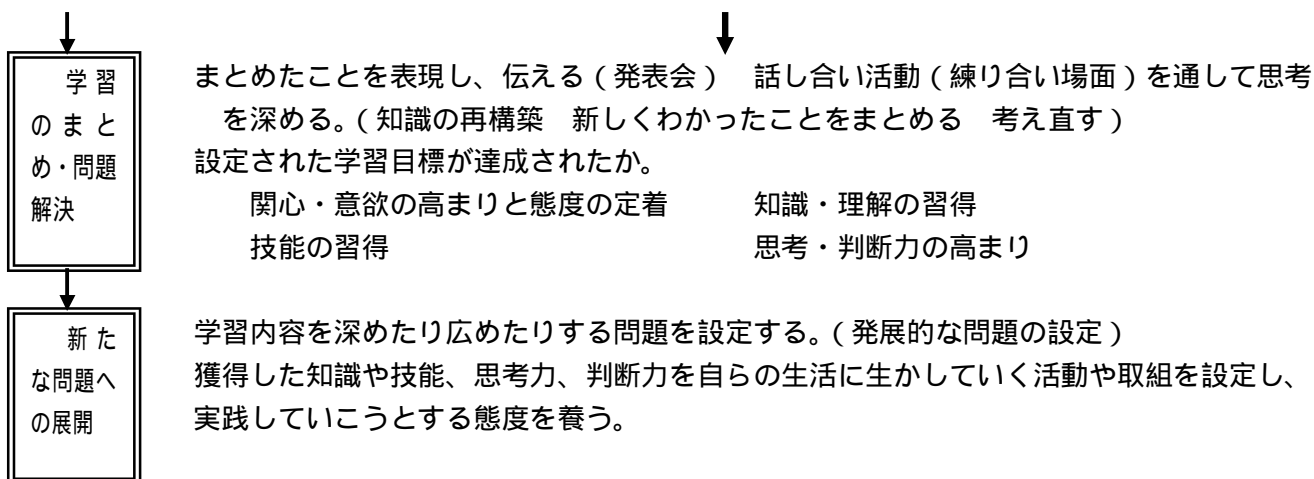
(1) 問題解決的な学習の意義

問題解決的な学習の学習過程において、特色的なものが「調べて、それをもとにして考える」活動である。自分の足で歩いて調べたり、体験したり、見学したり、教科書や図書資料、インターネット検索などの方法を使って調べたりする活動を通して、調べたことに対する自らの見方や考え方をもち、その考えを話し合い活動などの場を出し、練り合い、学び合うことで、さらに自らの見方や考え方が深まっていく。このような学習の積み重ねが、子ども達の社会的事象に対する見方や考え方を育て、社会的な事象にさらに積極的に関わろうとする姿勢や学習したことを身の周りの社会生活に返していく態度が育っていくと考える。

このような調べる活動を通して考える力を育てていく点に問題解決的な学習の意義を見出すことができる。このようなことから今回、単元の中に問題解決的な学習を取り入れる必要があると考え、実践を試みる。

(2) 問題解決的な学習の学習過程例（静岡県教育委員会 静岡県版カリキュラム 第2章 参考引用）





4 考える力を高めるための話し合い活動

(1) 話し合い活動の意義

個人やグループで調べたことを発表する場面で、教師が発表会のもち方を単元のねらいに沿って意図的に行わないと、社会的事象について調査結果の報告の場になってしまうことがある。思考の深まりが見られない調査結果の報告会である。考える力を育てるという観点からすると、調べたことについて自分なりに考える（考え直す）場面を意図的に設定することが重要である。発表にこぎつけるまでには、学習課題について各自、あるいはグループで調べたり、確かめたり、まとめたりといった手順で課題解決のための追究がなされていくが、それだけでは、思考の深まりに発展がない。せつかくの調べたことの発表である。集団での学び合いから思考の深まりと広がりを目指すものである。「調べた事実は確かなことなのか」「他に問題点はないのか」「似たような事例はないのか、違う事例はないのか」「自分達の生活との関わりは何なのか」「自分だったらこう考える」などのような調べたことに対する関わりを場を設定したい。この関わり（相互交流）を通して、他者の考えと自分の考えとの違いを知り、自分の考えを再構築するなど、話し合い場面が考える力を育てる場面になる。また、その経験を積み重ねることで話し合い活動が洗練され、今後の学習活動あるいは、他の教科に生かされていくのではと考える。

(2) 考える力を高めるための話し合い活動

まとめたものを発表し合い、話し合い（練り合い）活動を通して、新たに発見したことや考えたこと、お互いの練り合いの中から得られたことなど、調べたことについて発表し、考え、話し合うことは、お互いの見方や考え方を深めたり、社会的事象を多面的に考察したりする点で、とても重要な活動である。考えが対立する話し合いや意思決定する話し合いなど、ただの情報交換で終わるのではなく、学習問題について立ち返り、一人ひとりが自分の考えを問い直すような話し合い活動をしていくことが考える力を育てるためには大切である。

5 ICTの活用について

(1) ICTとは 「情報モラル 指導実践キックオフガイド」(文部科学省)より

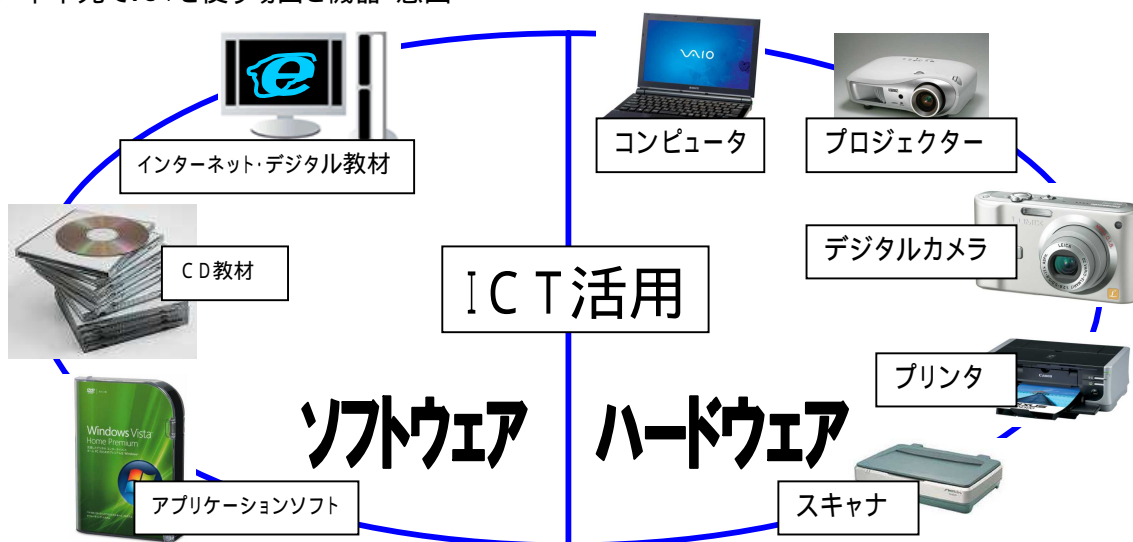
ICTとは、「Information and Communication Technology」の頭文字をとったもので、一般的には「情報通信技術」と訳されるが、文部科学省や教育の分野では「情報コミュニケーション技術」と訳されている。従来のITでは、コンピュータなど電子情報機器の活用に視点が置かれていたが、「C」がつけ加えられることにより、コミュニケーション＝人との関わりという視点が新たに加わったと考えることができる。教育分野でいうICTとは、コンピュータ、プロジェクター、デジタルカメラ、ビデオカメラ、実物投影機などのハードウェアと、WebサイトやCD-ROM、教育コンテンツなどのソフトウェアを合わせたものと捉えることができる。

(2) 授業の中でICTをどう活用していくか

授業におけるICT活用とは、その授業の目標達成のためにICTを活用することをいう。児童がICTを活用して学習する場合と、教師がICTを活用して指導する場合があるが、いずれの場合においてもICT活用の主たる目的は、教科の目標達成である。

ICTの活用は、今後益々、活用範囲が広がっていくことが予想される。活用の仕方次第で、様々な学習効果が得られる。ただ、万能でないことも確かである。コンピュータを使ったからといって、必ずしも授業の目標を達成できるとは限らない。ICT活用は、学習目標達成の手立ての一つとして必要に応じて利用すべきであろう。どの場面でどのような使い方をし、どういった学習効果が期待できるのかを考えて使うことが大事である。そこには、授業にコンピュータを取り入れる教師の明確な意図がないといけない。単元計画と一時間の授業設計していく中でコンピュータを使う必要があるのか、ないのか必要性を考えていかななくてはならない。

(3) 本単元でICTを使う場面と機器・意図



使う場面	使うICT機器	使う意図
資料提示の場面	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ ・プレゼンソフト ・デジタル教材 + ・プロジェクター 	情報の共有化を一斉に行いたい。 1 視覚的効果を利用したい。 ・導入場面で興味・関心を引き付けたい。 学習課題作りに発展させる。 ・提示資料をもとに思考していく場面で視覚的効果を大切にしたい。 2 デジタル教材の活用 ・学習理解の補完として活用したい。
調べ学習の場面	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット ・デジタル教材 ・スキャナー ・プリンタ 	1 インターネット検索 ・情報収集・必要な資料を得るために活用したい。 2 デジタル教材の活用 ・学習理解の補完として活用したい。 3 新聞作成に使う資料の印刷用として使いたい。
取材場面	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルカメラ 	1 発表資料作りのデータ用として使いたい。
まとめ・発表会の場面	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター ・コンピュータ ・プレゼンソフト 	1 情報の共有化を一斉に行いたい。 ・プレゼン用として使いたい。 2 学習記録として保存したい。

検証授業

社会科学習指導案

日 時：平成 20 年 7 月 1 5 日（火）3 校時

学 級：普天間小学校 4 年 2 組

男子 1 8 名 女子 1 9 名 計 3 7 名

授業者：大湾 修

- 1 単元名 大単元 健康なくらしとまちづくり
中単元 水はどこから

- 2 単元目標 (1) 自分たちの水の使い方や量、水道水が届くまでの経路、水を確保するための取り組みなどを具体的に調べて、毎日の生活が水と密接に結びついていることや水道事業が人々の努力によって計画的に行われていることを理解する。
(2) 水の大切さや自分の水の使い方、これから水をどのように使っていくのかについて考えることができる。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第 3 学年及び第 4 学年の目標 (1) 「地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。」同目標 (3) 「地域における社会的事象を観察、調査し、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、調べたことを表現するとともに、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育てるようにする。」並びに内容 (3) 「地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、見学したり調査したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。」に基づいて設定されたものである。

本単元「健康なくらしとまちづくり」のなかで水の学習となると、次のような流れが基本となる。私たちが健康な生活を送るためには、安全で大量の水の確保が必要不可欠であること。その水の確保のために、多くの人たちと自治体等が努力していること。また、環境の保全も大切であること。このようなことをふまえて、自分たちにはどのようなことができるかを考えること。

このような学習の流れを柱に、指導を進めていく必要があるが、水道の施設・設備面をこと細かく調べ、覚えさせることが本単元の主な指導内容ではなく、水道施設の働きやそれにかかわる人の仕事の特色について知り、水道事業と「自分の生活」「地域」「環境」とのかかわりを考えさせながら、飲料水を確保、供給するための対策や事業が計画的、協力的に進められていることを捉えさせることをねらいとする。

(2) 児童観

4 年生の子どもたちは、学習意欲も旺盛で、体験的な活動を好むとともに、知的なものへの興味も、少しずつ増してくる。また、自分たちの活動を振り返り、活動を通して感じたことや考えたことが自らの問いを生み、それを解決しようとする意欲も持ちやすい。実際に見たり、聞いたり、触れてみたり、作ってみたりする五感を通じた体験的な学習を多く取り入れることによって、疑問や問題点、調べたいという意欲も湧いてくる。本単元では、手洗い時の水の使い方や学校の蛇口調べ、浄水場見学を行うなど、体験的な学習を通して、子ども達に興味、関心を持たせるような工夫をしていくことが主体的な学習へとつなげる意味でも大切になってくる。

(3) 指導観

本単元では、問題解決的な学習を取り入れ、学習課題を設定し、調べ、まとめ、発表の手順で学習を進めていく。導入においては、児童の関心・意欲を高めるために、一回の手洗いで使う水の量や学校の蛇口調べなどの体験的な学習を行い、子どもたちが問題意識を持って学習に取り組むようにさせたい。また、単元途中で浄水場見学が組み込まれるが、見学の事後指導を丁寧に行い、水に対する意識をより高めることで、児童の意欲的な調べ学習に結び付けていきたい。

調べる過程においては、課題について調べ学習をグループで分担、協力して調べ進め、まとめの発表資料を作り上げていく。その際、調べ方やまとめ方について教師の支援だけでなく、児童がお互いに教え合いながら課題解決を図っていけるような共同的な学習を大切にしていきたい。

単元終盤の発表では、知識の獲得だけでなく、他の児童の調べ方、まとめ方の良さに気づき、自分の学習を振り返り、調べ学習の技能を高めていく場にするると同時に調べたことの説明だけで満足させるのではなく、自分の調べたことや考えをうまく相手に伝える技能を学んでいく機会とする。

単元の締めくくりとして、話し合い活動において、わかったこと、自分の考えを伝え合うといった意見の交流を図る中で、他の児童の見方、考え方に触れ、学習の理解や考えを深めさせたい。そして、今回の課題追究を通して、水の大切さや節水の必要性について考え、さらには、学んだことを今後の身の周りの生活や社会へ働きかける活動へと繋げていきたい。

また、本単元では、単元全体を通して、学習指導の手立ての一つとして、ICT機器を利用する予定である。資料提示としての活用だけでなく、学習の知識の補完や児童の調べ学習の際、学習道具として、インターネットを使ったり、デジタルカメラ、スキャナを活用するなど、効果的な活用を試みたい。

4 児童の実態

検証授業に先立って行った児童アンケートの結果は、以下の通りである。

表1 社会科事前アンケート(5月22日 実施 対象36人 回答数値は人数)

質問事項	はい	いいえ	どちらともいえない
1 社会科の勉強は好きですか。	19	16	1
2 どんな学習のしかたが好きですか。(いくつでもよい)	・地域探検6 ・しせつ見学18 ・取材してまとめる学習3 ・調べ学習8 ・ノートまとめ4 ・新聞作り6 ・発表7 ・テレビ視聴やビデオ学習14 ・コンピュータ学習19 ・テスト10		
3 発表することは好きですか。	10	11	15
4 考える授業は好きですか。	19	9	8
5 自分で課題を解決していく学習は好きですか。	13	10	13
6 調べ学習は好きですか。	18	6	12
7 コンピュータを使った授業は好きですか。	28	3	5
8 友達といっしょに調べたり、まとめたり、発表する学習は好きですか。	26	0	10

《アンケート結果の分析・考察》

社会科の学習については、53%の子が好きと答え、理由として、「施設見学の学習や校外学習があるから」とする回答が最も多かった。発表に関しては、「いいえ」「どちらともいえない」と答えた子が72%もいて、「はずかしいから」「間違ふことが心配」という理由で発表を苦手とする傾向が見られる。考えることについては、好きな理由として「考えることで勉強になるから」「考えることでいろいろな事を知ることができるから」と挙げている。自分で調べて課題解決していく学習については「自分で解決できた時、嬉しいから」「自分のやり方で進められるから」が好きな理由で、嫌いと回答した

多くの子が「どう調べていいかわからない」と一人で調べ進める自信がない子が多く、その子達の大半が、友達といっしょの共同学習を好んでいることがわかった。各項目で「いいえ」の回答が多い子のほとんどが、「どのように学習を進めてよいのか、どこをどのように調べたらいいのか」といった学び方がわからず、学習内容の理解が弱いため、答えや発表に関して自信が持てずに社会を苦手と感じているようである。アンケート結果で見えてきた児童の実態や課題から問題解決的な学習の進め方について学習の進め方、学び方については、丁寧に指導していきながら、粘り強く追究し続けていくための手立てや支援の在り方を十分考慮して授業構成を図っていく必要性を感じる。

5 評価規準

社会事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・試料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
飲料水の確保や下水の処理にかかわる対策や事業に関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究している。 地域の人々の健康な生活の維持と向上のために地域の人々が工夫や努力、協力をしていることの理解に基づいて、自分も地域社会の一員として、地域の人々の願いを実現していくために努力しようとする。	飲料水の確保や下水の処理にかかわる対策や事業について問題意識を持ち、学習の見通しをもって追究・解決している。 調べたことをもとに、飲料水の確保や下水の処理に関わる対策や事業は地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを考え、適切に判断している。	飲料水の確保や下水の処理と自分たちの生活や産業とのかかわりを見学したり調査したりして具体的に調べている。 飲料水の確保や下水の処理に関わる対策や事業が計画的、協力的に進められている様子を見学したり調査したりして具体的に調べている。 見学、調査した過程や結果を分かりやすく表現している。	飲料水の確保や下水の処理と自分たちの生活や産業とのかかわりが分かっている。 飲料水の確保や下水の処理にかかわる対策や事業は計画的、協力的に進められていることが分かっている。

6 指導計画(18時間)

		学習活動	具体活動 ・ 支援、指導の留意点 I C T I C Tの活用	評価規準
導入	1	1回の手洗いについてどれぐらいの水を使っているか調べる。 1日に使う水の量について調べる。	実際に手洗いをして水の使用量を測る。 ・家庭科室を利用 I C T 導入時の資料提示 資料をもとに一人分の1日の使用量を知る。 I C T 説明のヒント(提示)	【関・意・態】 水の学習について関心がある。 【技・表】 資料を読み取る。
	2	学校の水道設備の様子を調べ、話し合う。 ・学校見取図	学校にある蛇口調べを行い、学校の水道設備の場所やどのようなことに使われているか発表する。(拡大校舎見取図) その先がどこに繋がっているか予想する。	【技・表】 蛇口の場所と数を調べ、図に表す。
課題の設定	3	共通の学習テーマを決める。 学習課題をつくる。	単元の共通テーマを話し合いをもとに決定。 共通テーマに沿って、調べたい課題を出し合う。 ・課題について、分類・整理・統合するなど学習課題を焦点化していく。	【関・意・態】 話し合いに参加できる。
調べる	4	浄水場の仕組みや働きについて知る。(調べ学習)	浄水場の仕組みについて調べる。 浄水場見学の調べるめあてや予想、質問事項等を持つようにする。	【知・理】 浄水場の仕組みについて理解する。

調べる (共通)	5 ・ 6	浄水場を見学して、飲み水を作る工程や施設や働く人の工夫について調べる。	浄水場見学で初めて知ったこと、発見したこと等をメモし、予想と違うところを整理してまとめる。ICT デジタルカメラ	【関・意・態】 意欲的に見学し、質問することができる。
	7	見学メモをもとに浄水場見学で学習したことを整理し、発表することができる。	見学メモをまとめ、グループごとに見学で気づいたこと、予想と違ったこと等を発表する。浄水場の仕組みや働きについてまとめる。 ICT パワーポイント資料の提示(説明用)	【関・意・態】 進んで発表しようとする。
調べる (課題別)	8	学習計画を立てる。 学習の進め方について知る。	学習の進め方について例を提示し、説明する。 ICT パワーポイント(説明用) 課題解決のための具体的調査項目を設定する。 調査方法、資料についてグループで検討する。 ・机間巡視で話し合いの進展具合を確かめ、必要に応じて助言していく。 ICT パワーポイント資料の提示(説明用)	【関・意・態】 進んで計画を立てようとする。 【思・判】 調査方法等について考える。
調べる (課題別に調べる)	9 ～ 12	学習課題について調べる。 ・教科書 ・副読本 ・図書資料 ・地図帳 ・パンフレット ・インターネット	まとめの資料作りに備えてワークシートに各自メモを取っていく。 ・予め検索サイトについてチェック、登録しておく、児童に検索情報を提供する。 ・図書資料について司書教諭と連携し、資料を確保しておく。 ・調べ学習では、分担学習、共同学習で効率よく学習が進められるよう助言する。 ICT インターネットの Web ページ・デジタル教材・スキャナー	【関・意・態】 課題について調べようとする。 【技・表】 調査資料をもとにワークシートに記録することができる。 【思・判】 よりよい調査方法を選択し、利用できる。
まとめる	13 ～ 15	調べたことをまとめる。 ・拡大壁新聞 ・紙芝居など 発表の練習をする。	・グループ毎に発表形式に沿って発表資料を作成する。 ・自分なりの読み取りや解釈を盛り込んだ新聞、発表会資料作りを心がけさせる。 ・発表時の役割分担をはっきりさせる。	【技・表】 調査資料をもとに発表資料を作ることができる。 【関・意・態】 意欲的に課題解決に取り組むことができる。
学習のまとめ・問題解決	16 ・ 17	発表会を行う。 1 回目はグループ内で発表し、説明を行う。 2 回目はポスターセッション形式での発表会。	・発表し、質疑応答を行う。 ・発表を聞いてまとめる時間をとる。 ・まとめる時に感想だけでなく、わかったこと、自分なりの考えなどを書くよう指示する。	【技・表】 発表の仕方を工夫してわかりやすく発表できる。
	18 (本時)	話し合い活動を通して水の大切さや節水の方法について考える。 学習問題『水を大切に使うためにこれからの生活で自分たちにできることは何だろう』	家庭での水の使い方について振り返る。 水のない生活について話し合う。 外国の水事情についての資料をもとに話し合う 水の大切さや節水の方法について考える。 ICT パワーポイント資料の提示(説明用)	【関・意・態】 節水に対する意欲をもつことができる。 【思・判】水の大切さや節水の方法について考えることができる。
発展	* 他の時間(総合的な学習 特別活動等を利用) はたらきかける方法を実践する。 ・啓蒙ポスター ・標語			

7 本時の指導(18 / 18)


(1) 本時の目標


話し合い活動を通して、水の大切さや自分たちにできる節水の方法について考えることができる。
話し合い活動を通して、今後の生活の中で節水していこうとする意欲を持つことができる。

(2) 授業仮説

話し合いの場面において、水事情についての資料を提示し、思考する場を設定することによって水の大切さや使い方について考えが深まるであろう。

(3) 授業展開

	学習活動・発問	教師の支援・留意点	評価・資料
つかむ	1 家庭での水の使われ方について確認する。 (発)「家庭での水の使われ方だけど一番多いのは何だと思う。」	・パワーポイント資料(円グラフ)を提示し、クイズ形式で確認する。	
広げる	2 水がないと生活にどんな影響が出るか話し合う。 (発)「水が出ないと、困ることはどんなことかな。」 (発)「水がないと仕事や生活で困る人は、いないかな。」	・黒板には、「水がないと・・・」と提示する。児童の発言を取り上げ、板書したものを教師が反問することで水の大切さについて考えを広げる。 (児童の予想反応) のどの渇き、トイレ、入浴、洗濯、歯みがき、炊事、食器洗い、洗車、レトルト食品、植物への散水、水泳学習 水不足がもたらす生活問題について(農家、消火活動、給食への影響など)考えを広げる。 ・発言が出ないようなら、グループで考えさせる。 ・グループで気付いたことを発表させる。	
深める	3 「みんなに見てもらいたい写真があります。」 資料(水汲みへ向かう子どもの写真)を提示し、資料から水の大切さについて考える。 (発)「この子が、持っているものは何ですか。」 (発)「今からどこへ行くと思いますか。」	・パワーポイント資料を提示し、教師の発問で児童に考えさせていく。 (児童の予想反応) 「川」「水を汲みに」 ・川へ毎日3回、3km先まで水を汲みにいくことを告げる。	【思・判】 水の大切さについて、考えることができる。 

<p>深める</p>	<p>「ここに20リットルの水が入っている容器があります。どのくらいの重さか、体験してもらいます。」</p> <p>「これを持って、3km先まで水汲みに行けそうか」「行きたいか」「お願いされたらどうする」</p> <p>(発)「それでも写真の少女は、毎日水汲みをするんです。なぜだと思う」</p> <p>(発)「この子が水汲みをしないと、どうなる。」</p> <p>4 資料(ため池の水を飲む少年の写真)を提示する。</p> <p>「この男の子が飲んでいる水はどんな水かな。」「みんなだったら飲めるかな。」</p> <p>「でも、この子は、飲んでいるよね。病気になるかもしれないのに。」</p> <p>(発)「この子たちにとって水とは、どんなものであるのかな。」</p> <p>(発)「この子たちと比べて、みんなの水の使い方はどうかな。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水20リットルが入った水かんを見せる。 ・実際に数人の児童に持たせて歩かせ、重さを実感させる。 ・感想を聞く。 <p>(児童の予想反応)</p> <p>「できない」「行きたくない」「断る」</p> <p>(児童の予想反応)</p> <p>「生活に困るから」「水がないと死ぬから」「命にかかわるから」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりの子どもが生き延びるには1日、バケツ2杯、20リットルの安全な水が必要であることを告げる。 <p>・安全な水が確保できずに下痢などの症状で1日4000人が命を落としている事実を伝える。</p> <p>(児童の予想反応)</p> <p>「大切なもの」「生きるために必要なもの」「大事に使うもの」</p> <p>(児童の予想反応)</p> <p>「大切に使っていない」「大切にしたい」</p>	
	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">水を大切に使うために、これからの生活で自分のできることは何だろう。</p> <p>5 ワークシートを配り、これならできそうと思うことを個人でワークシートに書き、発表する。</p> <p>「多くの人が水の大切さに気付くと水の使用量は減るかもしれないね」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のできそうなことを記入させる。 ・具体的な方法を書くことを指導する。(机間指導) 	<p>【関・意・態】</p> <p>節水に対する意欲をもつことができる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>6 今日の学習を振り返り、水の大切さについて考えたことや感じたことをワークシートに書き、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習を振り返って、児童の取組について評価する。 	

(4) 評価

話し合い活動を通して、水の大切さや自分たちにできる節水の方法について考えることができる。話し合い活動を通して、今後の生活の中で節水していこうとする意欲を持つことができる。

8 検証授業研究会

(1) 授業者の反省

本時は、話し合い活動を通して思考の練り合いをしていく授業であったが、拾い上げた児童の発言にコメントを加えつつ次の発言に繋がるような発問や質問を心がけた。

今日の授業では、児童の予想反応や期待する反応を意識して一つひとつの発問や質問を組み立てた。その結果、普段よりも発言が多く出ていただけでなく、4年生なりに深く考えた発言もいくつかあり、発問の大切さを痛感した。

本時は、水事情の悪い国の例を提示資料に使い、心情面から水の大切さを実感させ、節水の方法を考えさせていったが、児童にとっては、資料から受ける印象が強かったようで、感想の発表やワークシートには、多くの児童が資料について触れており、そこから考えたことが書かれていた。提示資料としては、効果的だったと思う。

水事情の悪い国の水汲みの大変さを実感させるために、実際に児童に水かんを持ってもらい、重さを体験させたが、予想以上の盛り上がりだった。教室内でできるちょっとした体験を取り入れることで子ども達の関心や授業への参加意欲がこんなに高まるとは驚きだった。

授業の途中、説明がくどくなる場面があった。また、体験活動で時間を取りすぎてしまったために、授業後半の一人ひとりが自分の考えをじっくりまとめる時間や発表する時間を十分に取れなかった。

授業中、教師と児童とのやりとりの中で積極的に挙手した児童の発言や教師が望んでいる発言を中心に拾い上げたために、意欲はあったのに指名されなかった子がいた。もっと多くの子に発表の機会を与える工夫や配慮が必要だった。

(2) 意見及び感想

Q：座席形態がグループになっていたが、グループで活動したり、話し合う場面が見られなかった。グループを作らせたのはどうしてか。

A：個人での発言が出なかった場合、児童の考えを出やすくするため、考えを広げるためにグループで話し合わせる予定であったが、今日は、個人の発表が多く出たのであえてグループで話し合う時間は設けなかった。

水の大切さや節水の方法を考えさせるために、沖縄県の水事情やダム事情を統計資料を使って考えさせる方法もあってよかったのでは。

単元を通して毎時間使えるワークシート形式の工夫、また、自己評価欄を設けることも自分の一時間の学習を振り返る意味で大事であると思う。

教師自身が今日の授業を楽しんでいるように見えた。教師と子ども達のやりとりが楽しく進められながらも子ども達が真剣に水の大切さについて考えていたと思う。

子どもの発言に対する評価の声かけやユーモアを交えた切り替えしがあり、子ども達の考えを授業のねらいに沿ってうまく繋いで進めていた。

水かんの重さを体験する場面は、水汲みの大変さを実感させるためにとてもいい工夫だった。子どもは体験を通して学ぶことが多い。

提示資料が効果的だった。あの資料で子ども達は深く考えることができたと思う。

(3) 指導助言(沖縄県総合教育センター 宮城康人研究主事)

教師の人柄が授業に滲み出ていた。小学校の担任の先生は、学級の児童と共に学習する時間が長い分、児童一人ひとりの特徴やよさを知っているので、その特性を授業でうまく引き出せる、活かせるよさがある。

本時の授業において、水の大切さや節水の方法についてありきたりの考えを越え、水の大切さを自分ごととして考えさせていくということからすると、心情面に訴えてから考えさせる手法は、手立てとしてよかった。また、そのための提示資料も効果的であったと思う。

今日、発表できなかった子の中には、発表しようとする意思はあったが、発言機会が与えられなかった子もいた。自分の考えや価値観を表現する機会を保障してあげることが、発表できた自信につながり、授業に積極的に参加しようとする意欲や態度を育てるために大事である。是非、次の時間に考えを拾い上げて評価してあげてほしい。特に普段、発表が少ない子が発表したり、発表しようとした時は、「意欲を持つことができたか」の評価を判断する際、重要である。

これまでの学習で得た知識や理解が基礎となって、はじめて話し合い活動も成り立ち、思考することができる。知識、理解をしっかり習得させた上で今までの学習で学んだことが次の学習に活かせるような授業作りを常に心がけてほしい。

ペア学習やグループ学習のよさは、一人では考えることが難しい場合に他者からの支援で自分なりの考えをつくることができたり、他者の多様な考えに触れ、自分の考えを再構築することができることである。また、全体では発表することを躊躇する子にとって、グループ内であれば意見を出して、その子の考えや意見が反映され、話し合い活動に参加できるメリットがある。ただし、話し合い活動の前提として、教科内容の知識や理解がないとまともに話し合いが進められない場合が多い。ただ「話し合いましょう。」では、思考の深まりは期待できない。前段階の知識の習得や話し合いの進め方等の素地作りが大事である。また、状況に応じて、一人で考える、ペアで考える、グループで考えるなど、適時、学習形態を考えなくてはならない。

単元計画を立てるときや授業の中で評価していく場合、評価の観点について教師は、明確に自分なりの判断の基準を持っていないと正しい評価ができない。特に「関心・意欲・態度」については、難しい。どのように評価するか、何を持って達成したとするか、どこまでできたらよしとするか、達成できていない子に対してどのような手立てを講じるか、具体的な評価規準と一体化した指導方法が重要である。

同じ資料を使っても、どの場面で、どのように提示していくか、どういった発問をしていくかによって授業の成否が分かれてくる。授業では、児童の反応を予想し、思考させていく発問、児童の常識を揺さぶる発問をしかけないといけない。幾通りもの予想反応を考え、それについて次の発問をどうするか、どんな手立てをしていくか、指導案に書くことが重要である。ありきたりの発問、あるいは、すぐ答えが見つかるような質問では、児童の考えに深まりが期待できない。児童の反応を十分に予想することで、発問の質を高められるし、最適な資料を用意、提示することができる。また、教師の心の余裕も違ってくる。

本時の授業を学習課題の設定以前にもってきたら、水の大切さについて、児童が自分ごととして捉えることで、いろいろな学習課題が出てきたかもしれない。

仮説の検証

1 具体仮説 の検証

話し合う場面（練り合い）において、発問や支援の仕方を工夫することによって、社会的事象について多様な考えが引き出せ、考える力が育つであろう。

（発問の工夫について）

発問をする際、発問の意味がわかるように、わかりやすい平易な言葉での発問を心がけた。

資料を提示しながら行う発問は、児童の既知や生活感を基に身近な生活と照らし合わせて考えることができるようにした。

児童の発言に対して反問することで児童の考えをより促すようにした。

拾い上げた児童の発言にコメントや評価を加えつつ次の発言に繋がるような発問や質問を心がけた。

その結果、児童が集中して話し合いに参加し、考えて発言しようとする子が普段よりも多く見られ、多様な考えが出た。発言することができなかった子についても、考えたことをワークシートにきちんとまとめることができた。

（支援の仕方の工夫について）

話し合い活動を活発化させるために、次の二つを手立てとして考えた。

より多くの発言や多様な考えを引き出すための提示資料の精選
水事情の悪い国の例を提示資料に使い、自分たちの生活と対比させながら、心情面から水の大切さを実感させ、節水の方法を考えさせていった。ここでは、あえて多くの資料は使わず、児童の意表をつき、はっとさせる資料2枚に限定して、一つひとつの資料からじっくり考えさせるようにした。（図1）



図1 提示資料をもとに話し合う様子

話し合い活動に活かすための体験的な活動の導入

社会的事象をより実感を持って捉えさせるために、また、社会科の授業を楽しいものにするためにも、体験的な活動を組み入れた授業には意義がある。今回は、実際に水20が入った水かんを見せ、児童に水かんを持たせて歩かせ、重さを実感させることで提示資料で出てきた子の水汲みの大変さや苦勞を自分ごとのように捉え、そこから水の大切さについて、より深く考えさせることをねらいとして行った。



図2 体験活動の様子

児童にとっては、提示した資料や体験活動から受ける印象が強かったようで、感想の発表やワークシートのまとめには、多くの児童が資料や体験活動での驚きについて触れ、そこから水の大切さや節水の必要性和関連付けて感想や考えたことをまとめることができた。

(児童の感想より)

全員が節水の方法について書くことができた。「水を出しっ放しにしない」「水の無駄遣いをしない」等のおおざっぱで表面的な方法に留まらず、多くの子が具体例(節水可能な場所・場面)を挙げて節水方法を考えていた。中には4年生なりに深く考えたことを記述する子もいた。(図3・図4)

- (A子) トイレで水を流す時に、(水量の) 大小のレバーを使い分けるようにする。
- (B男) お風呂の残り湯を洗たくに使ったりしたり再利用する。
- (C子) 家の人にも水の大切さを教えて、家族で節水していきたい。
- (D子) 学校で手洗いをするとき、水を出しっ放しにしている人を見かけたら注意する。
- (E子) 水がいつでも使えないところがあることを知って、こまめに節水して、水が使えることに感謝して、大切に使いたいです。
- (F男) 僕たちは、蛇口をひねれば、すぐに水を使えるけど、他の貧しい国では、遠くまで水を汲みに行ったり、仕方なく泥水を飲んでいる子もいると知って、僕たちは、驚沢なんだなと思いました。だからこれから水をもっと大切にしたいです。
- (G子) 私は、(水事情が悪い地域の) 子ども達が、水を命のために大切に飲んでいるので、私は、水をもっと大切に使いたいです。

図3 児童の感想例

4年 社会 水の旅 ~水はどこから来て、どこへ行くのだろう。~

4年2組 名前()

◎今日の学習(7月15日)

水を大切に使うために、これからの生活で自分にできることは何だろう。

◎水を大切に使うために、あなたができそうなことを書きましょう。

1 水をみだすかきしない
2 水を使ったら、ちゃんと止める
3 水をいつかどこかに使えなくなるとときこそ
水を大切に使う

◎今日の学習をふりかえって考えたこと、わかったこと考えたことを書きましょう。

今日、水を大切に使うとぼくたちは、蛇口をひねれば、水が流れるけど、ぼくたちは、火をたかすのは、水が流れるまで、って20秒もかかるといって、あと、お風呂、子どもたちが、水をのんだりしているのを、ぼくたちは、せいかく、なんだなと思、また、だから、ぼくたちは、水を大切にしたいです。

図4 児童のワークシート

検証授業後、ワークシートに教師の評価とコメントを書き加え(図4)、次の話し合い活動に繋げていった。「節水の輪を学校に広めるために、自分たちにできる取り組みについて考えてみよう」とグループで話し合いを行い、考えを出し合ってもらった。各グループとも真剣に話し合う様子が伺え、いくつもの方法を考えつき、「節水と呼びかけるポスターを作る」「校内放送で全校児童に呼びかける」「チラシを作って各学級担任の先生に配り、お話をしてもらう」「全校朝会で校長先生にお話をってもらう」等の考えが出るなど、節水に対する考えや意識に高まりが見られた。

このように、話し合い活動の様子やワークシートに書かれた児童の反応から、水の大切さや節水の方法について、どの子も自分なりに考えることができたと思う。話し合いの場面でたくさんの発言が出たことやワークシートに書かれている文面から授業中、一生懸命、真剣に考えようとしたことが見て取れる。特に提示資料の内容や体験活動については、話し合い活動を活発化させ、児童の考えを促したり、深めることに効果的に働いたと考えられる。

このことから、話し合う場面(練り合い)において、発問や支援の仕方を工夫することによって、児童の多様な考えを引き出し、社会的事象(水の大切さ、節水、生活への働きかけ等)についての考えに深まりが見られた。

具体仮説 の検証

単元全体においてICT活用を工夫することによって、進んで調べ、課題を解決していこうとする態度が育ち、学ぶ意欲が高まるであろう。

本単元では、「授業の中でICT機器を活用することで児童の学習へ取り組む態度、学ぶ意欲の高まりに効果があるのでは」と考え、単元全体を通して使う場面、使う機器、期待できる学習効果を考慮しながら活用を試みた。

資料提示場面でのICT活用の工夫

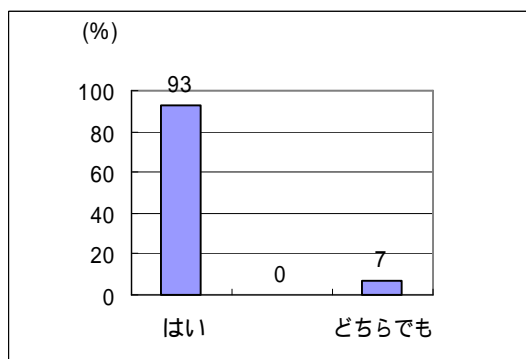


図5 コンピュータを使った授業はわかりやすかったですか



図6 資料提示の場面

(図5)「コンピュータを使った授業は分かりやすかったですか」の問いに対して、ほとんどの子が分かりやすかったと回答した。

(図6)資料提示の場面において、プレゼンソフトとプロジェクターを使って資料を拡大提示することで子ども達の視線や意識を提示画面に集中させることができ、学習内容の共有化と説明を効果的に行うことができた。「カラー表示で見やすく、分かりやすい」「写真や絵が使われて、説明が分かりやすい」などの児童の感想があり、視覚的效果を図りながら説明を加えることで興味・関心を持って授業に参加することができ、理解の助けと学習意欲の高まりにも効果があったと考えられる。

調べ学習におけるICT活用の工夫

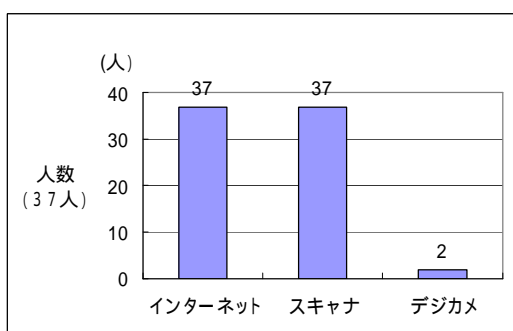


図7 児童のICT活用状況



図8 調べ学習におけるICT活用の様子

(図7)の「調べ学習におけるICT機器の活用状況」については、調べ学習の際、教科書や社会科資料集だけでなく、積極的にインターネットを使うことができた。インターネットの利用は、発表資料に使用する画像を得るために利用したり、調べたいことを関連するWebサイトやデジタル教材を使って調べるなど、課題解決の学習道具として活用することができた。同様に、スキャナも発表資料作成のために積極的に活用していた。

今回、児童の調べ学習が効率的にできるよう、学習内容に関連するWebサイトを予め、コンピュータに登録しておき、教室内でインターネットを常時4台まで自由に利用できるように設置したことも調べ学習に進んで取り組もうとする態度に繋がったと考えられる。

課題解決学習及び社会科学習に対するICT活用の効果

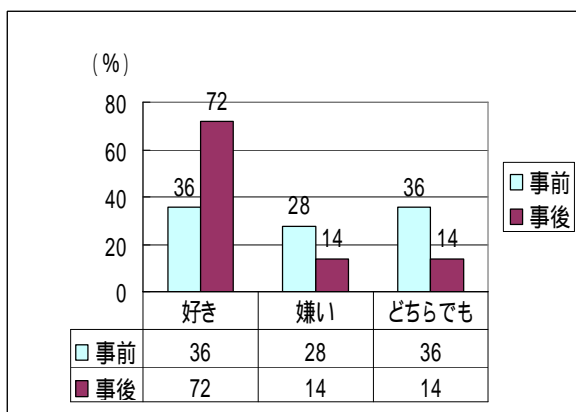


図9 自分で課題解決する学習は好きですか

(図9)「課題解決学習が好きですか」の問いに対して、「好き」と回答した子が36%から72%に倍増している。その理由として「先生の説明を聞いてノートまとめをするよりも自分で調べることができるから楽しい」「わからないことが自分で調べてわかるようになったから嬉しかった」「パソコンを使って調べられるから」とあった。

その中で調べる場面でのICTの活用については、多くの子が積極的にインターネットを利用し、調べ学習を進めていたが、児童の感想に「コンピュータをたくさん使えて楽しかった」「コンピュータを使って調べ学習がやりやすかったのでよかった」「教科書にのっていないことをインターネットで調べることができた」

「新聞に使う図をインターネットを使って印刷できた」「きれいな(立派な)新聞を作るために役にたった」「発表会で説明するとき、写真を使って説明できたのでやりやすかった」とあった。

調べ学習におけるICT活用は、調べ学習を積極的に進めることができた要因の一つとなったと考えられる。

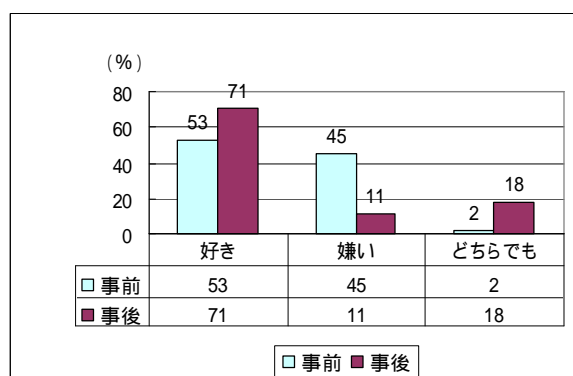


図10 社会科は好きですか

(図10)児童アンケートの結果より、社会科が好きと回答した子が53%から71%に増加し、逆に嫌いと回答した子は、45%から11%に減少している。好きな理由として「新聞作りが楽しいから」「調べ学習ができるから」「コンピュータを使って学習できたから」とあり、自分で或いはグループの仲間と共同で課題解決のための調べ学習ができたこと、その際、ICT機器を新聞作りや課題解決にうまく活用できたことが社会科学習の楽しさに関連していると思われる。

このことから、今回の単元において、資料提示場面や調べ学習においてのICTの活用は、学習理解の手助けになっただけでなく、進んで調べようとする態度、学ぶ意欲にも効果があったと考えられる。また、社会科が好きになった子が増えたことにも繋がったと考えられ、ICT活用による学習効果が認められた。

研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 問題解決的な学習について理論研究を進め、授業実践した結果、児童が積極的に調べ学習に取り組み、課題を解決していく喜びや社会科の楽しさを感じる子が増えた。
- (2) 単元全体においてICT活用を意識した授業実践を行ったことで、進んで課題解決に取り組もうとする態度や学ぶ意欲に高まりが見られた。
- (3) 話し合い活動において、発問や提示資料、体験的な活動を工夫したことで、話し合い活動が活発化し、社会的事象に対する考えに深まりが見られた。

2 今後の課題

- (1) 調べ学習は、楽しかったという意見が多かった反面、調べることが難しかったという感想(50%)が多かった。調べ方についての指導方法の工夫と訓練。
- (2) 友達の発表を聞いて自分の考えを伝え合う場面で、深まりのある意見交流や児童の相互評価の指導方法の工夫。
- (3) 問題解決的な学習における児童の学習意欲や思考を高めるために、一人学び、ペア学習、グループ学習等、学習形態の工夫。

3 おわりに

これまでの私自身の教職生活を振り返り、学習指導法について、課題があり、力量を高めたいと今回の入所を希望したところ、幸いにも願いが叶うことになりました。

本研究において、社会科の指導方法の理論研究面、実践面で多くのことを考え、学ぶことができました。これまでとは違った環境の中で、戸惑い、迷いながらも多くの方の協力と支えによって一歩、一歩、研究を進めてきました。研究所においては、じっくりと教育書や教育実践資料を読んだり、研修に参加させてもらったり、学習理論について専門的立場から教えて頂くなど、これまでなかなかできなかった貴重な経験を積むことができました。大変恵まれた環境の中で研究ができたことを有難く思いました。

このような研究の機会を与えてくださった宜野湾市教育長の普天間朝光先生、いつもにこやかに温かい言葉で励ましてくださった宜野湾市立教育研究所所長の長崎光義先生、研究所への入所を強く勧めてくださった普天間小学校の宮城邦子校長先生、大城英哲教頭先生、並びに普天間小学校の職員の皆様、検証授業に協力してくださった石井健一先生に心から感謝申し上げます。

本研究を進めるにあたり、県立総合教育センター研究主事の宮城康人先生には、テーマ設定の段階から深く研究に関わって頂き、理論研究はもとより、多くの実践事例紹介や指導案の検討に至るまで懇切丁寧なご指導とご助言を頂きました。さらに、社会科講座での講義や師範授業の実践など、社会科教育の在り方について多くのことを学ばせて頂きました。また、研修係長の田場勝先生には、研究の進め方や報告書のまとめ方に留まらず、研究に関する資料提供や教職生活における貴重なお話を聞くことができ、たくさんのお話を教わりました。常に研究の進み具合を気にかけてくださり、その度に的確なご助言と励ましの言葉を頂きました。深く感謝申し上げます。

更に、この半年間、日常のあらゆる面で研究生活を支えてくださった、はごろも学習センターの皆様には大変お世話になりました。おかげ様で有意義な研究生活を送ることができました。今回の研究生活で学んだこと、得たことを財産として、今後の教職生活に活かしていきたいと考えています。本当に有り難うございました。

< 主な参考文献 >

市川 伸一	『学ぶ意欲とスキルを育てる』	小学館	2007年
有田 和正	『有田和正の授業力アップ入門』	明治図書	2005年
北 俊夫・羽豆 成二	『社会科の授業と評価 3・4年(下)』	教育出版	2002年
桜井 茂男	『学習意欲の心理学』	誠信書房	1997年
北 俊夫	『ゆさぶりのある社会科授業を創る』	明治図書	1995年
静岡県教育委員会	『静岡県版カリキュラム 社会科』		